

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	運動と神経のしくみ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	14 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	前期	教室名	203,202
担 当 教 員	大西 玄樹	実務経験とその関連資格	保健師として学校保健、小児保健が専門。 各種看護専門学校、看護大学にて国家試験対策講師として勤務。			
《科目目標》						
神経系の構造と機能、脳と脊髄について構造と働きを理解する。 末梢神経系と生体リズムについて理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】終講試験100% 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
テキストや自筆ノートでの復習を行う 生理学において口頭で他者に説明できるようにグループワークでの復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
脳神経に関連する機能の正常な働きについて学ぶ。本科目で学習する内容は、病態治療Ⅲや各看護学の展開を考える土台となる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経の構造と機能について理解できる	テキスト	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	1)神経系の分類 2)神経組織の構造と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳と脊髄(中枢神経系)について理解できる①	テキスト	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	1)大脳 2)間脳 3)脳幹 4)小脳			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳と脊髄(中枢神経系)について理解できる②	テキスト	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	1)脊髄 2)中枢神経を保護する仕組み 3)伝達路			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経系の構造と機能が理解できる①	教科書	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	1)末梢神経の構造、末梢神経線維の伝達速度 2)脳神経の種類と神経支配、機能 3)脊髄神経と神経叢			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	末梢神経系の構造と機能が理解できる②	教科書	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。	
		各コマにおける授業予定	4)体性神経系 ①皮膚分節、②膝蓋腱反射 5)自律神経系 ①構造、②神経伝達物質、③自律神経系の働き(交感神経、副交感神経)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体のリズムが理解できる	教科書	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。
		各コマにおける授業予定	1) 睡眠と覚醒 2) サーカディアンリズム		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	教科書	教科書の該当ページを事前に熟読する。授業の復習をし、各部の名称と働きを確実に覚える。
		各コマにおける授業予定	理解不足の点を明確にし、理解を深める		
第8回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			